

第1回出生前検査認証制度等運営委員会 議事要旨

日時：令和3年11月1日（月）16:30～18:10

場所：web開催

出席者（敬称略）

日本医学会／日本医学会連合 副会長	飯野 正光
埼玉県立小児医療センター 病院長	岡 明（委員長）
社会福祉法人麦の子会 理事長	北川 聡子
慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター 教授	小崎 健次郎
東京大学医学部附属病院小児・新生児集中治療部 教授	高橋 尚人
大阪医科薬科大学小児高次脳機能研究所 所長	玉井 浩
明治学院大学 副学長・社会学部 教授	柘植 あづみ
一般社団法人日本衛生検査所協会 理事・顧問	堤 正好
信州大学医学部保健学科看護学専攻 教授	中込 さと子
全国手をつなぐ育成会連合会 副会長	西 恵美
横浜市医療局病院経営本部 本部長	平原 史樹
北九州市子ども家庭局子育て支援部子育て支援課母子保健係 係長	堀 優子
東海大学医学部専門診療学系産婦人科学 教授	三上 幹男
公益社団法人日本医師会 常任理事	渡辺 弘司

オブザーバー

日本医学会会長	門田 守人
日本医学会副会長	門脇 孝
厚生労働省母子保健課長	山本 圭子
厚生労働省母子保健課課長補佐	市川 佳世子
厚生労働省母子保健課課長補佐	上出 泰山
厚生労働省母子保健課主査	林 瑞季
日本医学会	

事務局

（株）MA コンベンションコンサルティング	堤 奈緒
（株）MA コンベンションコンサルティング	平田 由紀子

議題

(1) 今後の検討の進め方について

①情報提供ワーキンググループについて

- ・情報提供ワーキンググループの設置が承認された。
- ・ワーキンググループで今後作業を進めるにあたり下記意見が出た。
 - 妊婦や家族に最初に渡すリーフレットとしては、幅広い情報の中に NIPT も含まれるという形がいいのではないか。
 - NIPT 検査を受ける同調圧力にならないようにする必要がある。マスキングにならない様にする必要があり、出生前検査を受けない権利、知らなくてもいい権利もあるということが重要。
 - 様々な心配事がある妊婦さんの中で、NIPT に関心を持つ方にどのような形で説明していくのかという部分が難しい。
 - NIPT は生命の選別と言われ、ノーマライゼーションの理念に反するという面もあると指摘される。また逆にリプロダクティブ・ライツという側面もある。ノーマライゼーションの理念とリプロダクティブ・ライツの総論的なところと日本での現状を国民に説明できる、学生教育にも使えるような多面的な教材を作っていたら、若いころから理解してもらい、将来的に妊婦、カップルに NIPT を理解してもらうのもよい。
 - マスキングにならないような形が大事で、ノーマライゼーションについてどのように情報提供をしていくのが重要。
 - インターネットの時代のため、SNS も情報源となる。また、活字ばかりではなく、動画の作成なども検討。

②施設認証ワーキンググループについて

- ・施設認証ワーキンググループの設置が承認された。
- ・ワーキンググループで今後作業を進めるにあたり下記意見が出た。
 - あまり基準を厳しくすると非認定施設での受診に流れることになり、逆に緩すぎると非認定施設と変わらなくなる。特に連携施設について熟慮する必要がある。
 - 産婦人科医を経由しないで小児科医に相談できる形も大事。
 - 今までの認定施設だと、一部の県には基幹施設がなくアクセスができないという状況がある。できるだけ妊婦さんがたとえばコロナ禍でもアクセスできるシステムの構築が必要。

③検査精度評価ワーキンググループについて

- ・検査精度評価ワーキンググループの設置が承認された。
- ・ワーキンググループで今後作業を進めるにあたり下記意見が出た。

- 検査会社からの報告、産院からの報告の両面をみて、検査精度を判断することが重要。
 - トリソミー以外での診断を行う時には十分に議論する必要がある。
 - 内部精度管理、外部精度管理調査等についても明らかにする必要がある。
- ・運営委員会全体としては、制度の立ち上がりは来年春頃が理想と考える。

(2) その他

- ・ワーキンググループ構成員については、委嘱手続が終了後公表する。

以上